

## 令和3年度 真庭市立天津小学校 学校評価(自己・学校関係者)評価書

学校長
岡崎晃治
学校関係者評価委員
福島侑二、今石喜文 池本正行、辻本美由喜 下山史朗

<p style="text-align: center;"><b>自己評価総合所見</b></p> <p>・「すすんで学ぶ子」「自分と人を大切にする子」「健康に生活する子」を育成するための、今年度の重点取組について、⑫の投力向上以外のすべての項目において教職員の肯定的評価が100%であったように、年間を通して全教職員共通意識のもと、重点取組を進めることができた。</p> <p>・「すすんで学ぶ子」を育成するために、今年度は特に算数科と体育科において、児童が主体的に課題を追求する授業改善を進めることができた。昨年度からの課題であった読書活動の推進は、児童アンケート、保護者アンケートとも肯定的評価は向上しているが、引き続き読書好きを増やす工夫をしていく必要がある。</p> <p>・「自分と人を大切にする子」を育成するために、学級会や委員会活動を中心に児童の自治力向上を図った。運動委員会の児童によるあいさつ運動など、6年生を中心に学校生活を自分たちの力でよりよくしていこうという姿が見られた。各学年単学級であることから児童同士の関係が固定化している。縦割り活動を充実させることやより多くの人の関わりによって、個々の児童が活躍する場や新たな人間関係を築く場を保障していく必要がある。</p> <p>・「健康に生活する子」を育成するために、体育の授業改善と投力を中心とした体力向上の取組を行った。昨年度よりさらに、運動好きと体育を楽しんでいる児童を増やすことができた。メディアコントロールを中心とした生活習慣の改善については、保護者アンケートの結果が57.7%と低い数値であった。メディアコントロールについて、睡眠や運動の大切さと関連付けながらより効果的な取組を考えていく必要がある。</p>
--

評価領域	自己評価(3段階評価)					学校関係者評価(3段階評価)		
	評価項目	評価指標	評価方法・評価基準 (%は肯定的評価)	評価アンケート結果	評価(自己)	結果の分析及び改善方策等	評価(関係者)	自己評価に対する意見等
すすんで学ぶ子の育成	主体的で対話的な授業づくり	①課題に主体的に取り組むことができる。 ②見通しをもって課題を解決することができる。 ③友達と協働して課題を解決することができる。	①児アンケート 3:80%以上 2:60%以上80%未満 教アンケート 3:90%以上 2:70%以上90%未満 ②児アンケート 教アンケート 3:80%以上 2:60%以上80%未満 ③児アンケート 3:80%以上 2:60%以上80%未満 教アンケート 3:80%以上 2:60%以上80%未満	①児アンケート 90.8% 教アンケート 100% (A:86%) ②児アンケート 88.2% 教アンケート 100% (A:43%) ③児アンケート 94.5% 教アンケート 100% (A:29%)	3	算数科を中心に、課題提示や課題解決のための見通しの持たせ方を工夫して授業を進めてきた。今年度は学期に1回以上、各担任が授業を公開し、お互いにアドバイスし合う取組を実施したことにより、授業力向上を図ることができた。児童アンケート、教職員アンケートとも目標の数値を超えることはできなかったが、児童同士が協働して課題を解決するためのより効果的な手だてができるように次年度も引き続き算数科を中心に教職員の研修を行っていききたい。	2.9	・主体的で対話的な授業づくりのため、毎学期、授業をお互いに公開したことは授業力向上につながるよい取組である。 ・個人の能力差があるので、算数と国語の評価テストの結果は問題ないと考えられる。 ・基礎学力の定着のため、漢字練習ノートの統一は、定着につながる取組である。 ・基礎的な知識や技能の向上は、いかにその教科を好きになれるかが大切である。やらされる課題よりも楽しんで行える課題の工夫が必要である。 ・予習と復習を確実にできる家庭学習が必要である。
	基礎学力の定着	④基礎的な知識・技能が定着している。	④各学期まとめテスト(国・算) 3:85%以上 2:60%以上85%未満	④評価テスト 算数84.7(知識・技能) 国語85.3(漢字)	2	今年度の重点取組として、全学年で漢字練習ノートの使い方の統一を行い、漢字の定着を進めた。漢字については目標としていた85%をわずかに上ることができた。算数科の基礎的な知識・技能についても84.7%とほぼ目標値を達成しているが、学級内の個人差が課題である。少人数指導や、個に応じた練習プリント等の取組を進めていきたい。	2.9	・家庭学習の推進については、家庭学習時間の目安として具体的な時間を掲げていることは、児童や保護者にとって分かりやすい取組である。 ・家庭学習の内容を意識して行っているとは思わないが、宿題には時間がかかっているのよい。 ・読書活動の推進については、多様性を理解し、心豊かに生きていくには多読が大切なように思う。短い時間でも読書する習慣づくりのために、より創意工夫した取組が必要である。
	家庭学習の推進	⑤10分×学年+10分の家庭学習をしている。	⑤児アンケート 3:90%以上 2:70%以上90%未満 教アンケート 3:90%以上 2:60%以上90%未満	⑤児アンケート 94.9% 教アンケート 100% (A:57%)	3	全教職員で基本的な課題の内容を確認し、家庭学習の推進を図った。アンケート結果から、各学年の家庭学習時間の目標は達成しているといえる。次年度も引き続き、全学年共通の課題を設定するとともに、個に応じた課題の工夫やより主体的な学びにつながる家庭学習の工夫を行っていききたい。	2.9	・マンガの単行本などで文字に親しむことから文章に慣れることで、読解力につながることも考えられる。 ・読書は本の種類で好き嫌いもあるため、本が嫌いな子にならないように工夫して取り組んでほしい。 ・読書にマンガはだめという概念があるが、マンガも立派な活字である。
	読書活動の推進	⑥1週間に80分以上は読書をしている。	⑥児アンケート 保アンケート 教アンケート 3:80%以上 2:60%以上80%未満	⑥児アンケート 88.2% 保アンケート 65% 教アンケート 100% (A:86%)	2	月・火・木・金の朝の学習の時間を「朝読書」にし取り組んだ。また、全学年で週末課題に読書を入れた。学期に1回、親子読書週間を設定し、家庭での読書活動も推進してきた。児童と教員アンケートは目標値を超えることができた。保護者アンケートは昨年度よりは向上しているが依然低い結果であった。次年度も、「朝読書」を継続するとともに週末課題をより確実にできるように工夫していききたい。	2.7	
自分と人を大切にする子の育成	人権教育の推進	⑦友達に思いやりをもって接することができる。(インクルーシブ教育の視点を含む)	⑦児アンケート 保アンケート 教アンケート 3:80%以上 2:60%以上80%未満	⑦児アンケート 98.3% 保アンケート 83.5% 教アンケート 100% (A:47.7%)	3	児童アンケート「学校は楽しい」「友達と仲良くできている」で肯定的評価をしている児童が、95.6%、99.4%と高い数値であった。道徳を中心とした心の教育を大切にすることや学級会や委員会活動等を通して自治的活動を行ったことの成果である。次年度も引き続き、自治的・自主的な活動を充実させていきたい。また、道徳の授業の職員研修を行い、より質の高い授業ができるようにしたい。	3	・人権教育の推進については、児童のアンケート結果の肯定的評価が高いことと、SDGSやインクルーシブ教育の視点を入れ、共生社会について啓発していることを評価したい。 ・真庭市人権作文に天津小の児童が最優秀・優秀賞と多く選ばれているのも、「自分と人を大切にする子」の育成の成果である。 ・あいさつの推進については、委員会による新たな取組がなされていることがよい。 ・あいさつはよくできている。また、友達と仲良く話ができていると思われるので、よい評価とした。
	あいさつの推進	⑧気持ちのよいあいさつができる。	⑧児アンケート 保アンケート 教アンケート 3:80%以上 2:60%以上80%未満	⑧児アンケート 90.3% 保アンケート 84.6% 教アンケート 100% (A:86%)	3	毎学期はじめの生活目標をあいさつに関する内容に設定した。児童の自治的活動として毎月登校時のあいさつチェックを行ったり、運動委員会の児童による毎朝のあいさつ運動を行ったりした。また、PTAによる毎月10日のあいさつ運動も行った。児童アンケートでは、「あいさつができた」と回答した児童が昨年度は88%、今年度は90.3%と若干ではあるが伸ばすことができた。また保護者の評価も昨年度の80%から84.6%と伸ばすことができた。次年度も同様の取組を進めるとともに、あいさつの声の小さい児童への手だてを工夫していききたい。	2.4	・「学校は楽しい」「友達と仲良く」の基本は遊ぶことである。昔あそびなど、外遊びがしっかりとできるように進めてほしい。 ・あいさつについては、大人がすすんであいさつをすることが先決である。 ・自分から進んであいさつする子が少ない。相手に聞かえないあいさつはしてないのと同じである。

健康に生活する子の育成	体育授業の改善	⑨運動独自のおもしろさを味わうことのできる授業を行っている。 ⑩「場や活動の工夫」「仲間との関わり合い」「振り返り」を大切にしながら授業を行っている。	⑨児アンケート 教アンケート 3:80%以上 2:60%以上80%未満 ⑩児アンケート 教アンケート 3:85%以上 2:65%以上85%未満	⑨児アンケート 97.0% 教アンケート 100% (A:57%) ⑩児アンケート 94.4% 教アンケート 100% (A:64%)	3	今年度は「水泳」「ゲーム・ボール運動」「跳び箱運動」を重点領域として児童が運動のおもしろさを追求する体育の授業を行った。職員研修や研究授業を実施し、教職員の体育授業力の向上を図ることができた。児童アンケートでは、「体育が楽しい」98.2%、「運動は好き」92.5%とともに高い数値となった。次年度も、児童が主体的に課題を追求する体育授業を進めるとともに、より効果的な教師の支援を考えていきたい。	3	・体育授業改善については、本年度は特に職員研修や研究授業などで取組が強化されている。 ・運動習慣の向上については、コロナ禍でもりがちになり運動不足になりやすい状況があった。だからこそ、学校では運動に親しむことを習慣化してもらいたい。 ・生活習慣の改善については、生活チェックカードによる「見える化」は有効な方法であったと思う。今後も継続した取組を行い改善を図ってほしい。 ・コロナの関係で運動をする機会が減ったこともある。ゲームの時間・学習時間は保護者がすべて目がとどかないところもある。 ・運動習慣の向上、運動遊びをするのに必要な道具をさらに充実させたり、子供たちが多様なスポーツに親しむ機会をつくったりする必要がある。野球、ソフトバレーなど球技ができる環境があればよいのでは。
	運動習慣の向上	⑪児童が休み時間に運動遊びを行っている。 ⑫児童が休み時間に投げる運動遊びを行っている。	⑪児アンケート 教アンケート 3:90%以上 2:70%以上90%未満 ⑫児アンケート 教アンケート 3:80%以上 2:60%以上80%未満	⑪児アンケート 88.2% 教アンケート 100% (A:43%) ⑫児アンケート 73.3% 教アンケート 71% (A:14%)	2	休み時間に運動遊びを行ったかについての児童アンケートでは、昨年度93%に対し今年度は88.2%と数値が下がった。教職員の働きかけが弱かったことが原因のひとつであると考え。今年度は体育の授業や全校遊びの時間に投力を高める運動を実施してきた。5月のスポーツテストのソフトボール投げの結果と比較し、2学期末にはほとんどの学年で平均2m以上の伸びがみられた。次年度は児童の遊びのバリエーションを増やす取組を行いたい。	2.5	
	生活習慣の改善	⑬家庭で決めたメディアの時間(テレビ・ゲームなど)を守ることができる。	⑬児アンケート 保アンケート 3:80%以上 2:60%以上80%未満	⑬児アンケート 87.2% 保アンケート 57.7%	2	5年生が総合的な学習で長時間の動画視聴やゲームによる健康への影響等について調べ、学習発表会で紹介したり、児童の健康委員会でもメディアコントロールの大切さについての健康集会を実施したりと、児童の主体的な取組を行った。またPTAと連携し生活チェックカードを実施した。児童アンケートの結果は87.2%と目標値を達成しているが、保護者アンケートでは57.7%とアンケート項目の中で最も低い数値であった。家庭でのルールの徹底が難しいようである。次年度は、PTAと連携した取組に加え、健康に生活するための睡眠や運動の大切さを児童が学習する時間を年間を通して計画的に確保し、メディアコントロールにつなげていきたい。	2.5	
	安全教育の推進	⑭安全に生活できる。	⑭児アンケート 保アンケート 教アンケート 3:90%以上 2:70%以上90%未満	⑭児アンケート 100% 保アンケート 92.8% 教アンケート 100% (A:71%)	3	昨年度下校の児童の歩行の仕方に課題があったので、今年度は教職員の見回りを増やした。また、登下校の仕方に課題があれば、その都度、対象の登校班の児童を集め指導を行った。校内で大きなけがもなく、安全に生活ができている。児童アンケート、保護者アンケート、教職員アンケートとも目標値を達成している。次年度も、交通安全教室や計画的な避難訓練の実施などを通して児童の危険回避能力を高めていきたい。	3	

学校関係者評価総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価アンケートの結果が、ほとんどの項目で上昇しており教職員の努力をまず第一に感じた。数字の%は、評価のひとつの資料として参考にしたいが、次年度は朝読書の様子、登校時のあいさつ、運動や遊んでいる様子等を見学したいと考えている。</li> <li>・学校の評価内容は妥当と思われる。</li> <li>・次年度は、「子供らしく、元気で明るい楽しい生活のできる地域・学校」「あいさつで、つながる地域・学校」「自分らしさが発揮できる地域・学校」「心と体が健康な地域・学校」「コミュニケーションを大切にできる地域・学校」をより一層めざしてほしい。</li> </ul>
-----------	---

学校関係者評価を受けての対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子供らしく、元気で明るい楽しい生活のできる地域・学校」「あいさつで、つながる地域・学校」「自分らしさが発揮できる地域・学校」「心と体が健康な地域・学校」「コミュニケーションを大切にできる地域・学校」をめざし、「笑顔とあいさつでつながる天津っ子」を合い言葉に、次年度も「すすんで学ぶ子」「自分と人を大切にする子」「健康に生活する子」の各重点取組を進めていく。</li> <li>・令和4年度 重点取組をつぎの内容にする。</li> <li>「すすんで学ぶ子」 <ul style="list-style-type: none"> <li>①「わかる」「できる」喜びを感じ、学び続ける児童を育成する算数科の授業づくり</li> <li>②児童が主体的に課題を追究する総合的な学習の時間の充実</li> <li>③算数科の基礎的計算力の向上</li> <li>④漢字の確実な習得と活用力の向上</li> <li>⑤週1回の算数定着プリントによる基礎学力の向上と月1回の補充学習による発展的な問題解決力の向上</li> <li>⑥家庭学習の内容の工夫</li> <li>⑦読書好きを増やす取組</li> </ul> </li> <li>「自分と人を大切にする子」 <ul style="list-style-type: none"> <li>⑧自治的活動の充実と道徳の授業改善</li> <li>⑨計画的な人権教育の推進</li> <li>⑩異学年交流の充実</li> <li>⑪気持ちのよいあいさつができる児童を増やす取組</li> </ul> </li> <li>「健康に生活する子」 <ul style="list-style-type: none"> <li>⑫児童が運動独自のおもしろさを追究し続けることのできる体育科の授業づくり</li> <li>⑬児童がいろいろな遊びに夢中になる取組</li> <li>⑭メディアコントロールの力をつける取組</li> <li>⑮危険予知能力・危機回避能力を高める取組</li> </ul> </li> </ul>
----------------	--